

## 音も姿もなき殺し屋

こちらは、英文記事「[The silent and invisible killer onboard vessels](#)」（2019年4月25日付）の和訳です。



船内の密閉区画での事故は、深刻な負傷や死亡の原因であり続けています。何十年にもわたり、海上保安当局や、訓練機関、船主・運航者が密閉区画への立入に関する問題に取り組んでいるものの、リスクは解消されていません。

米国海岸ガード（USCG）は先日、Maritime Safety Alert 04-19「[Confined Spaces: Silent & Invisible Killers（密閉区画：音も姿もなき殺し屋）](#)」を発行しました。密閉区画への立入に伴うリスクは、係留中の移動式海洋掘削装置（MODU）で作業中に3名が窒息死した最近の事故例にも表れています。この事故でも、仲間の船員を救助しようと、個人向け保護具と自給式呼吸具を装着せずに密閉区画に立ち入った船員2名が死亡しています。

船内で密閉区画への立入演習を実施することが義務づけられている場合でも、演習を実際の現場に合わせたリアルなものすることが重要です。演習の参加者は、演習の目的が事故を防止することであって、単に規制要件を満たすためにチェックリストをこなせば済むものではないことを理解すべきです。USCGによると、人はストレスがかかると、他にやるべき作業や行動に注意が向いてしまい、明白な危険のサインを見落とす場合があることが複数の研究で明らかになっています。実際、密閉区画での死亡事故の50%以上は、同僚を救助しようとして発生したものと見られています。

事故が発生した MODU では、どのような内容の密閉区画への立入訓練が直近でいつ実施されたのかは不明ですが、船員らは救助に伴う危険性を十分には認識しておらず、救助作業の過程で状況認識を誤ったものと考えられます。こうした状況を踏まえて、USCG は、職務に関係なくすべての船員（オフィサー、クルー、陸上管理者、船主・運航者など）に以下のことを強く奨励しています。

- 緊急時や救助の際の手順を含め、密閉区画への立入手順について必要なレベルの知識を身につけ訓練を行うこと。
- 船員は定期的実施される密閉区画への立入訓練を受け、定例の実践的な船上防災訓練に参加すること。
- 密閉区画への立入と救助に必要な安全装置が船内に備えられ、それらすべての保守・点検が実施されており十分に機能することを確認すること。
- 密閉区画への立入に伴う危険を認識し、継続的に自ら学習を続けること。

Gard では、密閉区画への立入に伴う問題に対する意識啓発用の各種刊行物や動画を作成しています。これらの資料は、Gard の[密閉区画への立入訓練に関するウェブページ](#)、または以下のリンクから直接ダウンロードできます。

- [船員向けの啓蒙ビデオ（8分間）（MP4 – 144Mb）](#)
- [船上の安全ミーティングや話し合いで使用するケーススタディ（PDF、英文のみ）](#)
- [船内に掲示する啓蒙ポスター（PDF）](#)
- [SOLAS 条約第 III 章第 19 規則により義務化された密閉区画への立入・救助演習を取り上げた Gard Alert 記事](#)
- [密閉区画への立入手順を見直すべき時期かもしれません（Gard Insight）](#)
- [「警告-密閉区画-立ち入り禁止！」 - P&I インシデントレポート（英文のみ）](#)
- [Alf Martin Sandberg 氏が犯した致命的なミスの詳細説明（英文のみ）](#)

Gard は、すべての関係者に対して、密閉区画への立入に伴う危険を認識、評価、制御できるように、適切な訓練を実施することを推奨します。また、船上での作業計画を立てる際にはリスクを考慮するよう、各種手順書で促すことが重要です。作業に関わる船員をリスク評価プロセスにも参加させることも重要です。そうすることで、危険源とそれが招く結果について共通の理解を得ることができ、作業を始める前に必要な道具や安全装置の概要が把握できるようになります。

本情報は一般的な情報提供のみを目的としています。発行時において提供する情報の正確性および品質の保証には細心の注意を払っていますが、Gard は本情報に依拠することによって生じるいかなる種類の損失または損害に対して一切の責任を負いません。

本情報は日本のメンバー、クライアントおよびその他の利害関係者に対するサービスの一環として、ガードジャパン株式会社により英文から和文に翻訳されております。翻訳の正確性については十分な注意をしておりますが、翻訳された和文は参考上のものであり、すべての点において原文である英文の完全な翻訳であることを証するものではありません。したがって、ガードジャパン株式会社は、原文との内容の不一致については、一切責任を負いません。翻訳文についてご不明な点などありましたらガードジャパン株式会社までご連絡ください。